



414
A 4370



Handwritten text in cursive script (sōsho) on a red-lined background. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific note, located on the left side of the main text block.

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄附



統計
号一八甲

丁卯十月十八日

明治八年十月十八日

統計室中属湯澤直

卿

輔

統計權頭 出仕 属

過。外務省より掛合より以澳國公使の問題付之款王務一
諮詢之上別冊取調付外務省、所回を案相添付在何
也

外務省一沖回答案

去ル八月の中掛合より以澳國公使の問題付之款当省控
テ取調分分別冊符文相添付及以該付之右条件中進
取調中ニテ未夕精確ナラサル儀も亦其案既正心也
使ル可然否相成其扱及以所回を案相添付在何也

大
長
省

西暦八月十日

大藏卿大隅重信

外務卿寺島宗則殿

大正十一年
大隈侯爵邸

第壹 統計並紀事

統計ノ學ノ民治ニ切要ナルハ論ナシト虽モ我邦
回来此學ヲ講スルモノナリ近時稍其有用闕クヘ
カラサルヲ曉リ官又統計寮ヲ設ケ少シク綜核ノ
端緒ヲ啓シカ如キモ文書未整理セス今其十カ一
ニヲ得ルハアタハズ故ニ後數条ノ述ハ所ニ皆精
覈認リナキノ數ト云フヲ得ニ是風氣ノ未タ開ク
サル程度ノ固ヨリ然ル者ニシテ今遽カニ其精數ヲ求ム
ルハ却テ恐ク懸望臆込ノ陋ニ涉ラニ故ニ其知ルヘ
カラサル者ニ暫ク之ヲ措キ只其概畧ヲ舉ク

第一款

我邦古來米穀ヲ貴フヲ最モ重ク故耕耘ノ民亦最モ多ク
大凡農人ノ多キヲ殆ニト全國人氏ノ半ニ居ル今其耕地ノ薄ニ

上ハ者大略左ノ如シ

明治六年反別 三百四拾五萬。七拾八町五反七畝六步

即チ英ノ八百四拾九萬。七百五拾九丁二一〇〇ル

而シテ尔後漸次牧植ニ及ヒ開墾田圃トナスヘキノ地モ尚多クニ
テ凡其裁許アルヤ詳カニ知ルヘカラス官近頃測地ノ業ニ從フト虽
モ要歳月ノ能完備スヘキニ非ハナリ且耕地ニ年ニ度植付ルモノ
アリ或ハ甲年ハ深料ヲ作り乙年ハ穀類ノ藝ル等ノモノアリ
テ其作物ノ種類ヲ限リテ地面ノ區別裁許ナルヤヲ分ツ
ヲ得ス

第二款

曰素人氏耕耨ニ用ユル器具ハ皆一人ノ提携スルニ能ル者ニ
テ間々牛馬ノ力ヲ借ルモ歐米ノ如ク巨大ノ機械ヲ用ユル者
アルヲナシ故ニ平坦廣行ノ地或ハ方集田等ニ及フ者ナキニ非ス

虽ハ其耕地ヲ區畫スル者皆大ヲ狭小ニシテ其大ナル者モ
僅ニ數段ニスキスモ其小ナル者ニ至テハ三四歩或ハ二歩ノ狭キ
ニ至ル而シテ其之ヲ分有スルハ状ハ種數亦多シト是レ其要スル
之ヲ大分ニシテ二トスハ有地農一ハ無地農又ハ其地農ヲ分テニ
トス一ツハ自カラ其地ヲ耕スモノニシテ其地多ケレハ耕農ヲ
以テ其少ナケレハ一家之ヲ耕耨スハ其地ヲ他ノ民ノ貸付ス
ルモノニシテ其收養ノ數分ヲ徵收シテ以テ其家ヲ養フモノナ
リ其地農ヲ分テ又二トスハ他人ノ地借耕スルモノ即チ所謂
ナニト是ナリ一ハ他家ノ耕耨ニ服勞シ居ルヲ以テ生活スル者
トシレボ一レハ是ナリ若夫レ地主ノ占領スル所ノ地ハ廣狹
極メテ一ナラス之ヲ大ニシテハ一畝ノ廣伯ニ數スルモノアリ
之ヲ小ニシテハ所者僅カニ二三歩ニ過キザルモノアリ今ニ
其均致ヲ得ニシテ其載心移去ヲ備ワラス則チ以テ其致ヲ

得ルアタハハ借地ノ民ニ与テハカラセリアリ、カノ耕スニ
 得ユルノ地ヲ借リテ假借耕スルニ必キス高シテ又全園ノ石
 ヲ以テ農民一人、年一スレハ一般九畝出ルハ、千英ノ一
 四ハ九一第ニ當リ然レモ園子全園ノ農費ヲ考テ、若比スルモ
 ノニシテ、此等各地農ヲ借クノ數、得ヘカラス且上款イフ所ノ如ク
 我邦ノ農民概分々種ノ穀、蔬ヲ分セテ作リ、享ラ一種ヲ耕スモ
 ノハ、志稀ナリ故、昔々ノ種、分テ、今ノ農者ヲ考テ、
 ルアタハス又我邦ノ地人ノ地ヲ借耕スル民、其地大抵、皆屋
 スヘキ家屋アリテ、或ハ家ナキモ、其別ニ他ノ家を借テ、是ヲ以テ
 歐米ノ制ノ如ク、地主回雇ヲ作り、借耕ノ民、借ス、ナシ故、今之
 ニ代フルニ、各戸ノ數ヲ以テスレハ、凡三百三拾万ニ迫リ、高シテ、是亦各地
 各地、お混スルモノ、此方、概々、地ノ農、ハ、十分ノ七ニ、近ハヘシ

第三款

米麦之他ノ穀種ヲ播シテ得ル所ノ好差、右左ニ列スル所ノ
 如シ然レ、各地ノ肥瘠、ト肥糞、培土ノ厚サ、水ノ浸テ、此、ね、是
 ノ、中、の、ア、ル、尤、甚、シ、ク、因、ヨリ、一、概、イ、フ、ヘ、カ、ラ、ス、今、只、此、ノ、中、の、善
 通ノ概、算、ヲ、考、ル、ニ

穀名	東園	中園	西園
米	四十六倍六六	三十二倍	二十倍三三三
豆種米		四十倍	二十六倍六六
大麦	二十五倍	五十倍	三十倍
小麦	二十倍	四十倍	三十倍
稗麥	二十五倍	三十倍	二十五倍
大豆	七十五倍六六		十七倍五
小豆	七十五倍	五十倍	四十倍

豌豆	二十倍	二十倍	二十倍
蚕豆	八倍	八倍	八倍
稗	三百倍	三百倍	三百倍
蕎麦	六十倍	二十倍	五十倍
粟	百二十倍	百倍	六十倍
黍	三百倍	三百倍	六十倍
蜀黍	四百倍	四百倍	六十倍

① 此等ノ如登量ノ懸ハ方倍ノ如クハカビ

米 或ハ五石 或七倍億斤

美ノ一億三千万石ノ如クハ方倍ノ如クハカビ

麦 子ハ五石ノ如クハ方倍ノ如クハカビ

美ノ九千三百石ノ如クハ方倍ノ如クハカビ

豆 五石ノ如クハ方倍ノ如クハカビ

美ノ三千万石ノ如クハ方倍ノ如クハカビ
 縣 五石ノ如クハ方倍ノ如クハカビ
 美ノ三千万石ノ如クハ方倍ノ如クハカビ
 美ノ二億九千万石ノ如クハ方倍ノ如クハカビ

第四款

① 地ノ地方官ノ多額ニシテ由來者地ノ理字之ヲ
 際極ニ其農ヲ云々ニシテ由來者地ノ理字之ヲ
 スルハ其地ノ租税ノ子之ヲ徴收ス故ニ地方官ノ地ノ
 増減ヲ極ニ其農ノ多額ノ富カニ租税ノ多クシテ之ヲ
 徴三文字ノ報答ニシテ其地ノ理字之ヲ
 以テ例ニシテ高シテ其地ノ理字之ヲ

④ノ耕地毎、皆上中下下々等ノ差アリテ毎等、地ノ過テ常
ニ好獲米ノ全額ヲ宜メコラシ高ク云々、檢見ノ法アリテ、
豊凶ヲ檢シ高シクテ、或ハ之ヲ折半シ、或ハ之ヲ或ハ是、或ハ
ノ租額ヲ宜ムル、云々、或ハ三七式、或ハ二七式コレヲ取リト云然レ、
④ヨリ、同シカラス故、檢見ノ法、ナル者アリテ、同シ登熟ノ
候ニ、五リ、或ハ六、或ハ七等、ノ地檢見ニ、一方一歩ノ地ヲ畫シ、之ノ中、之ハ、
ル、ハ檢見ノ法、ノ法、之中、下ノ差、等、之准、之他
ノ地、ノ率、比、之一、村、々、所、ノ法、之檢、見、ノ法、之檢、見、
豊凶ヲ宜ムル、之租、額、ヲ料、スル、ノ比、較、スル、ハナリ、之他、ノ租、額、ニ檢、見、
法、アリ、ト、等、ハ、多、ク、ハ、之他、ノ法、之檢、見、ノ者、ノ一、般、ノ租、額、ト、云、フ、
タラス、之他、ノ法、之檢、見、ノ者、ノ租、額、ニ檢、見、ノ法、之檢、見、
檢見スルモ、亦、同、シ、試、験、スル、ノ法、ハ、ア、ラ、ス

第五款

⑤、之地、ニ於、テ、互、ニ、各、等、所、スル、米、麥、ニ、他、ノ量、數、ハ、凡、裁、
許ナルヤ、今、之、法、之檢、知、ス、ハ、カ、ラ、ス、然、レ、地、人、氏、々、之、符、ノ、お、ナ、リ、皆、米、
穀ヲ以テ、方、々、ニ、ス、ル、ヲ、以、テ、亦、各、等、スル、ノ米、穀、凡、一、等、ノ用、ニ、
取、リ、テ、巨、多、ノ檢、見、ニ、レ、但、考、テ、之、中、ニ、五、リ、テ、ハ、或、レ、は、遠、道、ヲ、取、
ス、ヲ、見、ル、ハ、且、内、地、ノ氏、々、當、ラ、ル、米、穀、ノ、凡、一、等、ノ法、之檢、見、ノ法、
取、リ、テ、作、ル、レ、ハ、ハ、ア、レ、ハ、多、ク、ハ、之、法、之檢、見、ノ法、之檢、見、ノ法、
ノ如キハ、檢、見、ノ法、ハ、亦、也、スル、是、ラ、ス

第六款

⑥、之地、ノ下、ノ界、モ、亦、新、法、之檢、見、ノ法、之檢、見、ノ法、之檢、見、ノ法、
又、米、麥、大、小、等、ノ、法、之檢、見、ノ法、之檢、見、ノ法、之檢、見、ノ法、
其、地、ノ、石、亦、亦、之、法、之檢、見、ノ法、之檢、見、ノ法、之檢、見、ノ法、
西北、ニ、緬、甸、ノ、地、ノ、法、之檢、見、ノ法、之檢、見、ノ法、之檢、見、ノ法、

西之ルノ國ハ西ノキニ東系ニ滯スルモノ多キニ居ルニ文字為スル大數
 報告莫算スル多クハ身ノ確定ノ現知ラ得ケル故ニ此精數
 ラ得カタニ

す七款

東系チ改官官署ノチ元者ノ古多ク之爲スル者大抵左表ニカ、
 此他各地國ヨリ官署アリ且ノ武ノ私名ニ玉リテハ此數
 巨多ク之當カニ此數ヲ知ルヲ以テ且時アリテ代ノ如價ヲ定
 ル、モノヲ以テ之ニ充ルツアリ

地名	棟數	戸數	地數	積高	石	坪
東京	四十七	三三三三	三十九百八十五坪	三十九百九十九坪	三十九百九十九坪	三十九百九十九坪
北海	三十一	八十九	三十九百八十五坪	三十九百九十九坪	三十九百九十九坪	三十九百九十九坪

す八款

我ノ系港海軍ノ係子ノ出款ニ遣ニ他ノ多クノ形者ノ務

ハスル層次ニシテ、此數ニ必多シト雖、其ノ形者ノ務
 ヲ知スルヲ得スル知ルハ者ハ以テ止ツリ
 六ノ以前官署ヲ務スルモノアルモ、人氏ヲシテ
 未幾ヲ務スルノ如クハ以テ八月一日ヨリ始リ
 許スル七年五月再ヒ之ヲ業シハ、八月一日ヨリ復之ヲ解リ
 即チ以テ七年五月再ヒ之ヲ業シハ、八月一日ヨリ復之ヲ解リ

す九款

以テニ

國名	不敷	斤數	元價	斤數	元價
米					
麥					
麥粉					
豆類					

明治三年

米
麦
麦粉
豆類

二ノ九四四ノ七六二
二七ノ六二八ノ三三六
四七ノ六ノ六ノ八二八
七三ノ七九ノ三三六

明治四年

米
豆
麦
麦粉

四一ノ九五七ノ八六〇
八三ノ八三ノ一八ノ七五
九ノ九ノ三ノ七三〇
一六ノ四八ノ九七ノ七五
一五ノ九八ノ八五ノ七五
一八ノ七ノ五ノ六一五
七四ノ九二ノ一五ノ四四

明治五年

米
豆類

一八ノ四九ノ九二ノ五ノ六六七
一八ノ四九ノ四〇ノ七五ノ八三
二二ノ二五ノ六ノ六四ノ三
三七ノ五七ノ三三ノ七五ノ一

支那
呂宋
米
合計米
麦
麦粉

九ノ九二ノ六八ノ五四ノ六
一八ノ一六ノ七八ノ三三ノ五五
七ノ三ノ三六ノ〇
一四ノ九三ノ三〇ノ九
三〇ノ五八ノ一四ノ〇
六ノ二〇ノ七〇ノ七九
九ノ九三ノ八〇ノ二八ノ六
一八ノ三六ノ九二ノ三三ノ六

一〇ノ七ノ五六七
二一ノ四九ノ三三ノ一九
一〇ノ二ノ二ノ七四ノ二
四ノ八五ノ三三ノ四四

以上表中米符ヲ付スル條内ニ於テハ本數ノ外尚俵箱桶等ノ
名稱ヲ以テ掲記スルモノ谷少許アリ然レモ其量數今知ル可カ
ラス且ツ之ヲ其全量ニ比スレハ概皆計フルニ足ラス故ニ今一切
之ヲ畧ス

明治六年

支
米
米粉

一六ノ九二ノ五九ノ四九
三三ノ八七ノ五三ノ三三
二六ノ二二ノ三八ノ七三
五三ノ七五ノ七八ノ三

一八ノ七九ノ四八ノ三
三三ノ五五ノ三三ノ七
九ノ七ノ五

二九ノ七八ノ四ノ六六
六一ノ三ノ三
二二ノ五四ノ一

計	豆	粉
	九七五・六九	四二八・八〇四・六三
	八一六・九九一	八七・八八・八〇
	一三・六〇・二〇・七・四・五	一三・八〇・五・九・一・二
		二・八・二・九・日・二

表中單ニ粉ト稱スルモ其何粉タルヲ知ル可カラス故ニ其英量モ亦掲
ノルヲ得ス

以上皆我海港ニ於テ貿易スル者ニシテ我ヨリ出テ、外國ニ航送スル者ニテラス
且明治五年以前國名ノ詳カナラサル者ハ今之ヲ分舉スルヲ得ス

第十款

各地方ノ貢米相場ハ年々十月十五日ヨリ十二月十五日迄六十日間其管内
數ヶ所ノ市場ニ於テ糶糶スル所ノ米價ヲ平均シ以テ之ヲ定ムルモノ也即
チ左ニ掲クル第一表ノ相場書是ナリ又別ニ各地方ヨリ米友其他ノ相
場ヲ毎月申報セシムル法アリ其全年ノ相場ヲ平均スルモノ即チ第二表
ノ如シ此ニ種共ニ官報ニ屬シ尤信憑スルニ足モノナリ然レモ此報告法ヲ設
ケタルハ近年ノコシテ昔時ノ相場ハ得テ詳クニスベカラス

第一表

明治七年貢米相場表

地名	上米壹石平均直段	地名	上米壹石平均直段
東京府	七、七二九・〇七	京都府	六、四七五・六五
大坂府	七、二一七・九六	神奈川縣	七、七七〇・七七
兵庫縣	七、二七七・八九	長崎縣	七、五二七・〇三
新潟縣	四、六九九・四〇	埼玉縣	七、六五四・三九
熊谷縣	七、六七八・五六	足柄縣	七、四二一・四二
千葉縣	七、二一七・七八	茨城縣	六、四二六・二九
栃木縣	七、七八四・〇三	奈良縣	六、六八四・七三
堺縣	六、九五三・一一	三重縣	七、一八〇・三八
度會縣	七、四四五・〇五	愛知縣	七、五一五・九四
濱松縣	八、五九四・七二	静岡縣	七、七九六・〇四
	一磅一五〇・リ・三・三・ス		一磅二〇・リ・二・二・ス

山梨縣	六、三九四、五 一磅六〇九、二ヘシ	滋賀縣	七、〇八四、八 一磅九〇九、二ヘシ
岐阜縣	七、三〇三、八 一磅九〇九、二ヘシ	筑摩縣	六、〇四三、六 一磅四〇九、二ヘシ
長望縣	五、八二八、八 一磅三〇九、二ヘシ	宮城縣	五、七九三、七 一磅三〇九、二ヘシ
福島縣	四、五四六、九 一磅一八〇、九ヘシ	磐前縣	四、六九四、三 一磅一九〇、九ヘシ
若松縣	三、一六九、二 一磅一三〇、九ヘシ	水澤縣	四、一六六、八 一磅一七〇、九ヘシ
岩手縣	四、三四三、〇 一磅二七〇、九ヘシ	山形縣	三、八七九、五 一磅一五〇、九ヘシ
置賜縣	三、一三五、七 一磅一三〇、九ヘシ	青森縣	四、〇五三、一 一磅一六〇、九ヘシ
秋田縣	四、二三七、七 一磅一七〇、九ヘシ	鶴岡縣	四、三九〇、七 一磅一八〇、九ヘシ
敦賀縣	五、九九七、九 一磅四〇九、二ヘシ	石川縣	五、八七一、四 一磅四〇九、二ヘシ
新川縣	五、一五一、五 一磅二〇九、二ヘシ	相川縣	二、八一七、二 一磅一〇九、二ヘシ
豊岡縣	五、七〇二、七 一磅三〇九、二ヘシ	鳥取縣	五、〇六三、〇 一磅二〇九、二ヘシ
島根縣	五、六七〇、八 一磅三〇九、二ヘシ	濱田縣	六、一四一、三 一磅五〇九、二ヘシ
飾磨縣	七、三七五、六 一磅一〇九、二ヘシ	北條縣	六、四三六、七 一磅六〇九、二ヘシ

岡山縣	七、〇五六、七 一磅八〇九、二ヘシ	小田縣	六、九六三、七 一磅八〇九、二ヘシ
廣島縣	六、三三二、九 一磅六〇九、二ヘシ	山口縣	六、九六二、〇 一磅八〇九、二ヘシ
和歌山縣	七、二八九、二 一磅九〇九、二ヘシ	名東縣	七、一六九、七 一磅九〇九、二ヘシ
香川縣	七、三六四、七 一磅一〇九、二ヘシ	愛媛縣	七、二三三、五 一磅九〇九、二ヘシ
高知縣	八、三二一、六 一磅一四〇、九ヘシ	福岡縣	六、五五七、八 一磅六〇九、二ヘシ
三潁縣	七、〇二六、五 一磅八〇九、二ヘシ	小倉縣	六、七九五、八 一磅七〇九、二ヘシ
大分縣	七、〇一六、七 一磅八〇九、二ヘシ	佐賀縣	七、二二〇、一 一磅九〇九、二ヘシ
白川縣	六、九六五、六 一磅八〇九、二ヘシ	宮崎縣	五、七九三、七 一磅三〇九、二ヘシ
鹿児島縣	八、二三七、七 一磅一三〇、九ヘシ		
平均	六、三三七、三 一磅六〇九、二ヘシ		

第二表
同年全年平均米麦豆相場表

地名

東京府 京都府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣 長崎縣 新潟縣 埼玉縣 熊谷縣 足柄縣 千葉縣 茨城縣

米

六、八二七九一
一、八〇九〇九
六、四〇七四二
一、六〇六〇九
六、五七八九三
一、七〇七〇九
七、一三〇二二
一、九〇九〇九
六、五〇〇〇八
一、六〇六〇九
六、三三〇一
一、六〇六〇九
四、〇七八一八
一、六〇六〇九
七、二八五八八
一、九〇九〇九
七、二七五七八
一、六〇六〇九
六、八七四〇八
一、六〇六〇九
六、七九二三九
一、七〇七〇九
六、三三三二八
一、六〇六〇九

麦

一、八五五六一
一、七〇七〇九
三、二五一三七
一、九〇九〇九
二、九五〇二八
一、六〇六〇九
二、一八七七
一、六〇六〇九
三、〇八七二〇
一、六〇六〇九
一、六一一〇六
一、六〇六〇九
一、七二二〇九
一、六〇六〇九
二、〇七二二六
一、六〇六〇九
二、二七二七九
一、六〇六〇九
三、〇三五五四
一、六〇六〇九
四、一四九六九
一、六〇六〇九
三、三四二五六
一、六〇六〇九

大豆

四、六一六七六
一、六〇六〇九
五、五〇五八四
一、六〇六〇九
四、八二二四七
一、六〇六〇九
四、四九六二七
一、六〇六〇九
四、八一四九四
一、六〇六〇九
三、九二二七一
一、六〇六〇九
三、五七〇〇二
一、六〇六〇九
四、七四九九九
一、六〇六〇九
四、八四二五一
一、六〇六〇九
四、六〇四七八
一、六〇六〇九
四、四六八六二
一、六〇六〇九
四、二二一九三
一、六〇六〇九

朽木縣

奈良縣

堺縣

三重縣

度會縣

愛知縣

濱松縣

静岡縣

山梨縣

滋賀縣

岐阜縣

筑摩縣

長野縣

六、六九一三五
一、七〇七〇九
六、三九一五六
一、六〇六〇九
六、四三九八五
一、六〇六〇九
六、一九六五三
一、六〇六〇九
六、六五五九八
一、六〇六〇九
六、五二七〇九
一、六〇六〇九
六、八〇三三八
一、六〇六〇九
七、二七二四四
一、六〇六〇九
六、一四〇一四
一、六〇六〇九
六、一七二七七
一、六〇六〇九
六、四四〇七二
一、六〇六〇九
五、二五三一
一、六〇六〇九
五、二三〇七二
一、六〇六〇九

二、七二七五五
一、六〇六〇九
三、一六〇一六
一、六〇六〇九
二、八四八七二
一、六〇六〇九
三、九二〇一八
一、六〇六〇九
三、六〇八四七
一、六〇六〇九
三、六六四七九
一、六〇六〇九
四、〇三一二二
一、六〇六〇九
四、六二六五九
一、六〇六〇九
二、七三三二一
一、六〇六〇九
四、三三〇六九
一、六〇六〇九
二、七〇三四五
一、六〇六〇九
二、三七一〇一
一、六〇六〇九
二、四六六七六
一、六〇六〇九

四、七七三六四
一、六〇六〇九
五、一七二四二
一、六〇六〇九
四、六八一五七
一、六〇六〇九
五、二五九七九
一、六〇六〇九
五、三〇四四八
一、六〇六〇九
四、九四一四五
一、六〇六〇九
五、七〇七〇九
一、六〇六〇九
五、三〇六三二
一、六〇六〇九
四、九五七一三
一、六〇六〇九
四、九二六七四
一、六〇六〇九
四、九七〇〇五
一、六〇六〇九
三、八三一八九
一、六〇六〇九
四、一五四九三
一、六〇六〇九

名東縣	六、四一・一・二。	二、七三・一・九・八	四、七二・一・九・五
香川縣	一、磅六〇リリクニヘンス	一、磅一〇リリクニヘンス	一、磅九リリクニヘンス
愛媛縣	六、六四・三・八・二	二、八八・九・八・九	四、一六・九・六・四
高知縣	一、磅七〇リリクニヘンス	一、磅二〇リリクニヘンス	一、磅一七リリクニヘンス
福岡縣	六、三三・三・六・二	二、八七・九・三・二	四、四四・一・七
三瀨縣	一、磅六〇リリクニヘンス	三、四六・六・三・〇	五、九三・一・〇・七
小倉縣	七、一・二・六・二・六	一、磅四〇リリクニヘンス	一、磅四〇リリクニヘンス
大分縣	一、磅九リリクニヘンス	二、五八・一・五	四、四八・四・六・九
佐賀縣	五、四六・八・六・六	一、磅一〇リリクニヘンス	四、一八・四・九・八
白川縣	一、磅二〇リリクニヘンス	一、四六・一・五	一、磅一八リリクニヘンス
宮崎縣	五、五三・〇・八・六	一、磅六〇リリクニヘンス	四、八七・一・六・三
鹿兒島縣	五、八八・一・〇・〇	二、八七・七・六・三	一、磅
全年平均	一、磅四〇リリクニヘンス	二、二八・三・三・五	四、二五・一・二・二
	五、七〇・七・〇・〇	一、磅九リリクニヘンス	一、磅一七リリクニヘンス
	一、磅三〇リリクニヘンス	一、六八・六・一・九	四、一三・八・三・七
	六、二五・五・九・二	一、磅六リリクニヘンス	三、九三・一・八・三
	五、三〇・六・四・五	一、磅八リリクニヘンス	一、磅一六リリクニヘンス
	一、磅一〇リリクニヘンス	一、九三・九・一・七	四、一・二・九・〇・四
	五、三九・四・九・二	一、磅七リリクニヘンス	一、磅六リリクニヘンス
	一、磅二〇リリクニヘンス	三、一・二・七・八・二	五、〇・八・二・三・〇
	七、一六・二・一・四	一、磅三リリクニヘンス	一、磅一〇リリクニヘンス
	一、磅九リリクニヘンス	二、六五・七・一・八	四、三・四・一・六・七
	五、六五・九・〇・一	一、磅一リリクニヘンス	一、磅一七リリクニヘンス
	一、磅三〇リリクニヘンス		

又商社ニ於テ東京府下ノ米價ヲ年々平均シテ之ヲ簿記スルモノアリ又
以テ茶考ニ供スルニ因テ左ニ掲ク

年號	米壹石價金	年號	米壹石價金
慶應二年	七、二六・三・九・五	慶應三年	八、六九・八・二
明治元年	一、磅九リリクニヘンス	明治二年	一、磅一五リリクニヘンス
明治三年	六、〇〇・九・五・八	明治四年	八、九一・六・七・二
明治五年	一、磅四〇リリクニヘンス	明治六年	一、磅二六リリクニヘンス
明治七年	九、二八・六・六・一		
	一、磅一八リリクニヘンス		
	三、九五・三・一・七		
	一、磅一六リリクニヘンス		
	七、一四・五・七・六		
	一、磅九リリクニヘンス		

我國米麥諸穀ヲ産出セザルノ地ナシ中ニ就テ奥羽尾濃加越及ヒ九州ノ
肥後等ヲ以テ最モ饒シトス概シテ之ヲ言ハハ多穀リ地ハ其價賤シク少
穀ノ地ハ其價貴シト雖モ穀ヲ産スル大抵相同シキノ地ニシテ其價昂
低適ニ異ナルモノハ特ニ人民ノ多寡ニ関スルニ非スシテ其運輸ノ便不

便ニ由ルモノ也昔時封建ノ時如キハ各地津港ヲ鎖シ閉糶相通セサルモノアリテ其差更ニ甚シトス近來封建ノ制ヲ廢シ開糶ノ禁ヲ解キ環海藻朶ヲ備ヘ各地商社ヲ設ケ大ニ運漕ノ利ヲ開キ漸々甚昂甚低ノ患ヲ除クニ至レリ要スルニ表中米價ノ賤シキハ米多クシテ糶出便ナラサルノ地ニシテ米價ノ貴キハ消費多クシテ他ノ回漕ヲ仰クモノト看做スベキナリ

第十一款

本邦民食皆米麦諸穀ヲ炊熟シテ之ヲ用ユ故ニ水車水碓等ノ設ケ各地多ク之アリト雖モ未タ巨大ノ機械ヲ用ユ者ヲ見ズ

引證原拠

我邦戊辰ノ大變以來日タル尚淺ク百端ノ事務未タ全ク整理セズ上文掲クル所間々或ハ成書アリテ沿革スト雖モ多クハ之ヲ主任ノ寮司ニ問ヒ具各種ノ官報ニ就テ叢書ノ中ヨリ摘摭抄出スルモノナレハ別ニ書目ノ掲クヘキナシ民間ノ私書ニ至テハ其統計ノ事ヲ論スルモノ少ナシ或ハ之レアルモ官書ノ精確信スベキニ如カズ是ヲ以テ本文民間ノ説ヲ載スルモノハ獨リ相場會社米價平均表ノ一ノニ他ハ一切之ヲ取ラス若夫レ此書ヲ草スル間往復問答スル所ノ寮司ハ茅四款挙クル所ノ三箇并ニ出納寮戶籍寮等ニ別ニ近頃假リニ設クル所ノ地租改正局アリ農政ノ細節目ニ至テハ此ニ諮詢スルモノ多シ

